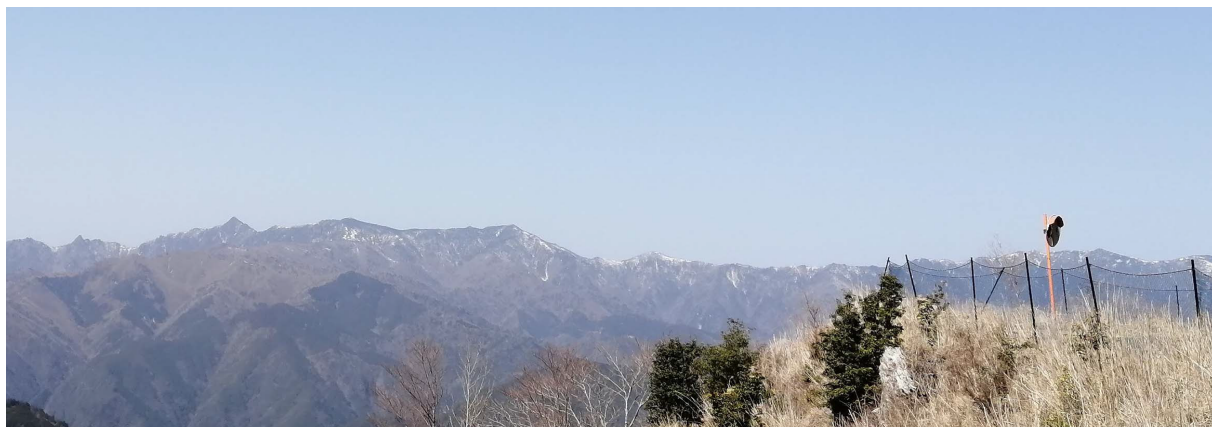


YAMA_HE_SAMMPO_IKOU

さんぽき
かみきた山歩記 -013

熊野灘・塩の道

上北山村小椽へ北牟婁郡紀北町



小椽から一つ目の峠（荒谷峠）を越えて、本来であれば荒谷沿いの古道を使って東ノ川出口方面へ向かっていたはずだが、今は坂本ダムができて東ノ川が渡れない。そのため、荒谷峠から林道椽谷西ノ谷線を経由して又剣山を越えて東ノ川木組付近に下る。又剣山山頂から北に続く竜口尾根の先は大台ヶ原方面。写真中央やや右に見える岩壁は東大台の展望ポイント大蛇岩。

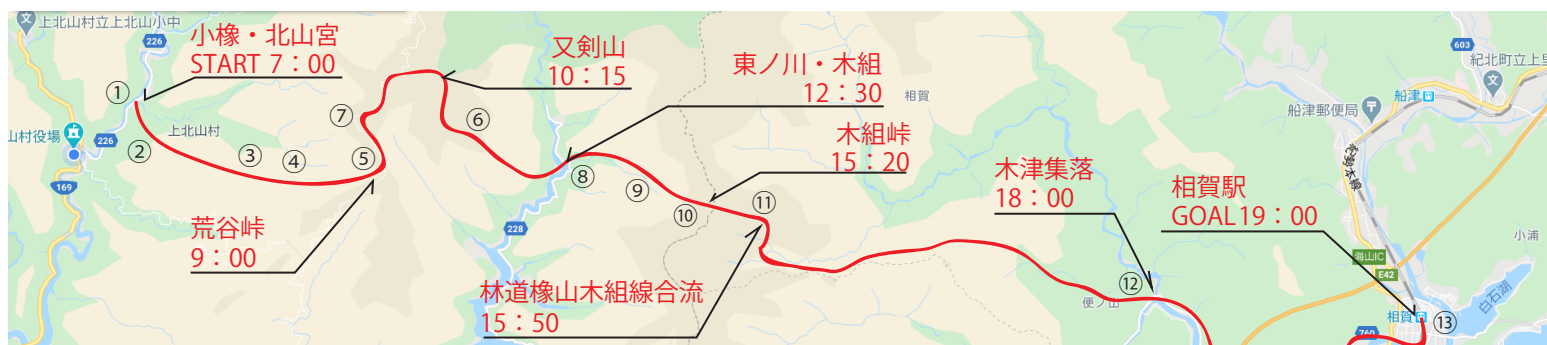
明治末、昭和初期にかけて、いくつもの険しい山々を越えて実際に行商していた人がいたなんて…。現在では到底考えられないけど、当時は歩くことが当たり前。海沿いの町に売りに行くよりは、山間の集落に売りに行ったほうが重宝されるだろうと考えた行商がいても、全然おかしくない。

以前から通って歩きたいと思っていた、上北山村から三重県の海山へ抜ける道。先日、やっと歩くことができた。小椽の自宅を出発して山を越え、紀勢線相賀駅まで。その後は、大阪の実家へ電車で向かう。電車を利用すれば、下山口に迎えを頼んだり、帰宅用の車を置いておく必要がないので、気軽にチャレンジできると考えた。ただ、大阪に向かう終電が相賀駅19時20分発。間に合わなかったときのことも考え、念のためテント泊できる装備も用意して実施することにした。

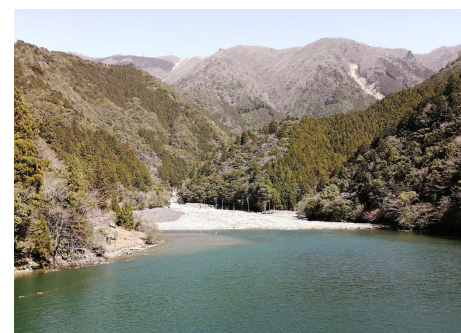
海山郷土資料館・主事の家崎氏からお聞きした「熊野灘発・塩の道」の話。



1：北山宮横の階段。荒谷峠に続く古道につながっている 2：一昔前は、集落の清掃で草刈りをしていたと聞く。しっかりと踏み跡が残されている 3：振り返ると大峯の稜線が見える 4：石垣や石畳が残っている箇所もあり、古道の雰囲気満載 5：林道へ合流する手前にあった大木。形がかっこいい！ 6：写真真ん中に東ノ川出口橋が見える



7 林道椽山西ノ谷線にある大峰展望台付近から大峯方面を眺める。



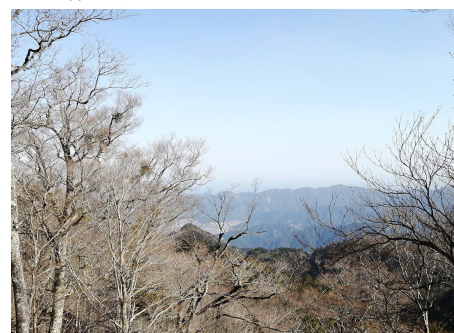
8 村道出合・大台線が一番奥のつり橋から東ノ川上流を眺める



9 木組谷右岸の大崩落で、木組峠～木組集落の古道は消えてしまった



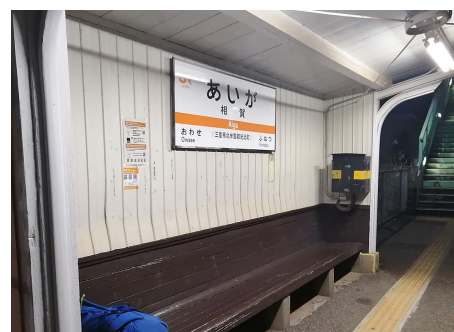
10 東ノ川から木組峠までが、しんどくてノロノロと亀のような歩みだったが、何とか上がりきった



11 遠くに尾鷲の町が見えてきた。といっても、まだまだ道のりは遠い...



12 松浦武四郎も通ったという木津道。登山道の入り口には案内看板が立てられている



13 ゴールの相賀駅に到着。何とか大阪行きの終電に間に合った。

大まかに説明すると、海山から上北山村までは二つの大きな峠を越えると到着できる。距離にして35キロほど。健脚な人なら、きつと半日で踏破してしまう距離である。ただ、行商をするとなれば荷がかなりの重さになる。古文書によると、18貫（67キロ！）の荷を天秤棒で担いでいたとか。昔の人は超人だな...と実感した。

古道は、自然に還り道なき道のところも多々あったが、しっかりと石垣や石畳が残っている箇所もあり昔の情景が感じられる。見晴らしの良いところから眺めると、幾重にも山々が重なり果てしなく続く。きつとこの風景は、昔の魚売りも見ただろうな...なんてロマンチックなことを考えていたのは歩き始めて最初の頃だけ。お昼を過ぎ夕方近くになると、とりあえず暗くなる前に車道に出なくては！と必死。何とか終電に乗れる時間に駅に到着した時は、しみじみと喜びがこみあげてきた。

険しい峠を越える道でへとへとになったけど、山を越えたら海なんだな...を実感できる面白い山歩きだった。

【編集後記】

民宿100年の片付けも終わり、営業に向けてぼちぼちと動いています。先日、保健所や消防署へ行き、開業に向けての事前相談をしたり、少し建物に手を加えることになりそうので工務店の方に来ていただき見てもらったり。協力隊卒業の9月までには、きちんと営業できるように考えています。村外から遊びに来てくれる方だけではなく、村内の方にも、気軽にお茶したりおしゃべりしたりできる場所になればいいと思っています。

行政便利	上北山村通信「山へ散歩いこう」
発行	地域おこし協力隊 小谷雅美
発行	偶数月第二水曜日
連絡先	090-2064-4971

*小谷雅美協力隊員の山行記録は、ブログでも読めます
「山へ散歩いこう」で検索してみてください☆